

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H01028

研究課題名(和文) IBの理念を踏まえたカリキュラム・授業・評価の開発的研究

研究課題名(英文) Developmental research on curriculum, lessons, and evaluation based on the IB philosophy

研究代表者

棚橋 健治 (TANAHASHI, KENJI)

広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授

研究者番号：40188355

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 28,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は次の4点を行った。IBディプロマ・プログラムで育成を目指す資質・能力の全体像と、各科目の教育の位置づけを分析し、IBプログラムにおける各科目の教育の特徴を解明した。日本国内のIB認定校で実施されている各科目の教育およびIB日本語認定校を目指して検討に着手している学校で構想されている各科目を調査し、それらの論理と実際を分析した。上記2課題にもとづき、日本語の科目「言語と文学」「歴史」「科学」「美術」のモデルカリキュラム・授業・評価プランを作成した。開発したプランを、授業キットとしてどこでも誰でも利用可能な形で整備し、その普及・拡大を図ることで、教育界ならびに社会への還元を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバルに活躍できる人材の資質・能力は、IB認定校やSGHの生徒にだけ求められるものではなく、それ以外の学校の子供達にも一様に求めるべき資質・能力である。それは新学習指導要領が求める人材育成を具体化することにも寄与する。本研究は、すべての日本の学校教育をグローバル社会で活躍できる資質・能力の育成に対応したものへと改善することを図るものである。本研究により具体化された、IB教育の特色である多様性の認識とそれを受け入れる寛容性、自律的な判断、発信力の育成とそれを可能にする学習者主体で参加型、協働的な学習により、探究的授業が可能になり、日本の学校の根本的変革につながるという意義を期待できる。

研究成果の概要(英文)：The following four points were made in this study. (1) We analyzed the overall picture of the qualities and abilities that the IB Diploma Program aims to cultivate and the positioning of the education of each subject, and clarified the characteristics of the education of each subject in the IB program. (2) We investigated the education of each subject implemented in IB-accredited schools in Japan and each subject being considered in schools that have begun to study for IB Japanese language accreditation, and analyzed the logic and reality of these subjects. (3) Based on the above two issues, we developed model curriculum, lesson, and evaluation plans for the Japanese language subjects "Language and Literature," "History," "Science," and "Art." (4) We also developed lesson kits that can be used by anyone, anywhere, to promote and expand the use of the developed plans, thereby giving back to the educational community and to society.

研究分野：教科教育学

キーワード：国際バカロレア IB ディプロマ・プログラム 歴史 科学 文学 芸術

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

20 世紀後半頃から政治・経済・情報・環境など様々な面でボーダレス化が進む状況の中で、学校の教員には、グローバル化が進展する社会で活躍できる人材を育てるような教育ができる資質・能力を身につけることが求められている。しかし、学校教育におけるグローバル人材育成を国際的に主導している IB は、日本ではこれまで語学の壁が障害になって普及が十分進んでいなかった。そうした中、近年、日本における普及・拡大を図って IB ディプロマ・プログラムの一部科目が日本語でも可能になり、その普及・拡大が期待されている。IB プログラムの特徴である多様性への寛容、自律的判断等を中心に据えた新しい教育のあり方の理論的検討と共に、多くの学校で導入を可能とするためにモデルカリキュラム・授業の開発が喫緊の課題となっている。

研究代表者は、挑戦的萌芽研究「国際バカロレア日本語科目『歴史』のモデルカリキュラム・授業の開発」(平成 27～28 年度)を受け、理論的研究を進めるとともに、ひとつの大単元のモデル授業開発を行った。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル人材の育成に対する要請が高まる今日の日本において、そのひとつの有効な方策として注目される IB の普及・拡大に向けた新たな動きである日本語 DP の導入を受け、科目「言語と文学」「歴史」「科学」「美術」のモデルカリキュラム・授業の開発を行うものである。それを通して、グローバル人材育成の牽引役となる IB 認定校やスーパー・グローバル・ハイスクールのみならず、それらを含むすべての日本の学校の文学教育、歴史教育、科学教育、美術教育をグローバル社会で活躍できる資質・能力の育成に対応したものへと改善することを図るものである。

3. 研究の方法

本研究では、研究代表者、研究分担者およびその指示の下に研究協力者が、IB プログラムおよび日本国内の IB 認定校において実施されているカリキュラム・授業・評価を調査・収集・分析し、そこから得られた IB の特徴を活かした科目「言語と文学」「初級外国語」「歴史」「科学」「美術」のモデルカリキュラム・授業・評価を開発する。具体的には、

- (1) IB プログラムの理論および実践に関する諸報告等を収集・分析し、そこにおいて育成する資質・能力とその論理ならびにカリキュラム・授業・評価のあり方を明らかにする。
- (2) 日本国内の IB 認定校において実施されているカリキュラム・授業・評価を調査・収集し、それらの特徴と課題を分析する。
- (3) (1)(2)の成果に基づいて、各科目のモデルカリキュラム・授業・評価を開発する。
- (4) 学会発表、現職教員研修での活用、報告会の開催ならびに報告書の作成等により、研究成果を公開し、広く学校現場での活用を図る。

4. 研究成果

本研究の成果は、日本における初等中等教育の改革に大きなインパクトを与えることが期待できる。IB 教育の特色である多様性の認識とそれを受け入れる寛容性、自律的な判断、発信力の育成とそれを可能にする学習者主体で参加型、協働的な学習は、長年議論されながら、充分実現していなかった探究的授業が可能になり、日本の学校の根本的変革につながることを期待できる。

歴史教育の場合、所属する社会への帰属意識育成の有効な手段として、洋の東西を問わず活用されてきたが、その問題性が指摘され、その克服のためのさまざまな研究とそれに基づく提案がなされてきた。本研究は、歴史教育改善の根拠をグローバル社会において求められる資質・能力の視点から構築し、それを実現するカリキュラム・授業という形で具体化するとともに独創性がある。その結果、自らの所属する社会の優越観を植え付ける歴史教育からの根本的転換が図られ、グローバル人材の育成に大きな寄与ができる。

言語教育の場合、所属する社会の言語を対象化して考えながら、自らのアイデンティティを捉え直し、よりよい人生を送る言語行動主体の形成がめざされてきた。本研究は、従来、国語教育や外国語教育で営まれてきた言語と文学の教育を、グローバル社会において求められる資質・能力の視点から捉え直し、言葉によって理解しあうことのできる言語行為主体を育てていくカリキュラム・授業として具体化していくことに独創性がある。その結果、言語と文学によってかた

ちづくられてきた文化資源を有効に活かす能力や言語批評意識を育てていくことが可能になり、所属する社会の言語や新たに学びとった他の社会の言語をもとに、多様なコンテキストのなかで活かし、言葉によって未知と向き合い異質性と格闘することのできるグローバル人材の育成に大きな貢献をすることができる。また、我が国には、読解力と表現力とを切り離してとらえ、テキストからの知識の受容に焦点を置いた「読解力」観が根強く存在するという問題があるが、国際バカロレアやPISAなど、欧米に共通する母語教育の枠組みにおいては、両者を相互に深く関わるものとしてとらえたカリキュラム、評価の体系を築いている。これらは、近年我が国においても「活用力」「言語活動の充実」として取り組む営みへの有力なモデルとなり得る。

科学教育の場合、科学のすがた(Nature of Science)についての理解や、他者と協力しながら合意形成する力や考えを批判的に吟味する力の重要性が指摘されてきたが、具体的な授業モデルや評価方法の開発が進んでいないのが現状である。本研究では、グローバル社会において求められる資質・能力の観点から、科学のすがたについての理解の促進、合意形成能力や批判的思考力などの育成に向けた、科学教育のカリキュラム・授業モデル・評価方法を開発するところに独創性がある。これにより、科学的リテラシーを身につけた国民の育成や、次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成に、大きく寄与することができる。

芸術教育の場合、現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しとして「グローバル社会の中で、芸術を学ぶことを通じて感性を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになる」ことが課題として示された。本研究では、この課題改善の根拠をグローバル社会において求められる資質・能力の視点から構築し、それを実現するカリキュラム・授業という形で具体化するところに独創性がある。その結果、課題改善の方向性が示され、創造的な発想・構想力を備えた国際社会の一員として必要な、豊かな情操を養うことに大きな寄与ができる。

いずれの科目に於いても、IB日本語認定校に必要なモデルの提供となり、認定校申請の拡大に寄与できる。

研究成果は、別記の学術論文、図書、学会発表等で行うとともに、広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)との共催で数多くのセミナー、フォーラム、ワークショップ開催という形で公表した。特に、研究期間後半がCOVID-19の感染拡大により、本研究で重要な位置を占める学校現場の訪問が不可能となった。そのため、IB授業の見学・意見交換ならびに実験授業などの機会がなくなり、その代替・補完手段としても、EVRIのオンラインセミナーを活用した。オンラインセミナーとなったために遠隔地からの参加が可能になったことにより、当初の計画と比して、所要予算は大幅に削減されたが、成果の広がりや想定以上となり、全国各地から成果資料の提供を求める問い合わせがあった。その中には、本研究が提案した指導モデルなどを自ら試行、改善してその結果を連絡してくださる先生もあった。

実施したセミナー等の一例を挙げると、以下の通りである。

・「国際バカロレア DP 日本語科目『歴史』授業の構想」(2018年2月17日): 国際バカロレア DP の歴史における学びのあり方と、それに基づいて開発したレッスンプランを提案した。全国各地から参加いただいた方々は、IB の提案する通教科的な学びと歴史という教科固有の学びについての考察に基づいた歴史単元「20世紀の戦争の原因と結果」の提案に興味を示した。

・「TOK および「言語と文学」のワークショップ」(2018年8月25日): IB 実践校である英数学館より講師を招き、TOK (Theory Of Knowledge, 知の理論)に関するワークショップを開催し、知識および問いの階層性とそれらを追究する TOK の学習プロセスや、それを教科とどのように関わるのかについて、具体的に体感することができた。

・「国際バカロレアの理念を踏まえた教育実践から考えるこれからの理科授業と教員養成」(2019年2月16日): 広島叡智学園および岡山理科大学から IB 教育を実践・研究されている方々を招き、実践報告と講演を行った。

・「アクティブ・ラーニングのデザイン～理科授業における問いに着目して～」(2019年8月1日): 滋賀大学より講師を招き、「理科授業における問いづくり」と題して、学習者の思考の枠組みと問いの関係、問いに対する教師と学習者の認識のし方、問いの分類などについての講演を開催した。また、「化学変化とイオン」を題材にした問いづくりの演習を行った。

・「国際バカロレア教育におけるインクルージョン」(2019年9月24日): 国際バカロレア機構グローバルセンターより講師を招き、多様性とは学校を構成するすべての者を包含することであり、インクルージョンを醸成するための豊かな資源として尊重されねばならないことなどを考えた。

・「国際バカロレア MYP の実践から考えるこれからの理科授業」(2019年11月3日): 東京学芸大学附属国際中等教育学校より講師を招き、講演・ワークショップを行った。また、IB・MYP の教育を実践する4名の先生方から実践事例が報告された。

・「美術と平和」(2020年2月5日): 広島市立基町高等学校ならびに広島大学から講師を招き「高校生が描く原爆の絵の意義」「美術はどのように平和と関わるのか」の講演を開催し、今日まで多くの美術家によって表現されてきた「美術」と「平和」の関連性について、芸術学と教育実践の視点から考察した。

・「IB に学ぶ探究的な歴史学習」(2022年2月20日): 歴史科はなぜ、どのようにして、このような歴史像を作り上げているのか、自分はそれに賛同できるのか、それはなぜか、新たな事象に対して自分はどのようにしてその事象を解釈して歴史像を造るのか。このような探究的な歴史

の学びを実現するものとして、IB 教育に学び、IB 認定校、一条校を問わず実施したいレッスンプランを提案した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山元隆春	4. 巻 63
2. 論文標題 読む文化・読むコミュニティを築く基盤としての「共通テキストを読む」授業と自立した読者の育成 ケイト・ロバーツ『小説アプローチ』を手がかりとして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語教育研究	6. 最初と最後の頁 14-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山元隆春	4. 巻 597
2. 論文標題 発見の契機としての詩歌学習	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊国語教育研究（日本国語教育学会）	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山元隆春ほか	4. 巻 17
2. 論文標題 「交流理論」の再検討ーリテラシー教育基礎論としての意義を中心にー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 「交流理論」の再検討ーリテラシー教育基礎論としての意義を中心にー	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下博義ほか	4. 巻 63巻
2. 論文標題 小学校理科における教師主体の「導入アプローチ」による批判的思考力の育成 - 第5学年「振り子の運動」における児童の素朴な考えを生かした授業展開を通して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 理科教育学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下 博義、岩崎 泰博	4. 巻 46
2. 論文標題 児童が保持する電流の素朴概念の明確化と科学概念への変容を支援するAR 教材および指導法に関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 141 ~ 156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jjet.45068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 FURUISHI Takuya、YAMANAKA Shingo、KINOSHITA Hiroyoshi	4. 巻 62
2. 論文標題 Basic Research on Consensus Building Ability in Elementary School Science	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Research in Science Education	6. 最初と最後の頁 465 ~ 474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11639/sjst.21016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita Hiroyoshi、Utani Ryosuke	4. 巻 20
2. 論文標題 LEARNING PROGRESSIONS IN LOWER-SECONDARY SCHOOL SCIENCE EDUCATION IN JAPAN	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Baltic Science Education	6. 最初と最後の頁 775 ~ 789
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33225/jbse/21.20.775	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita Hiroyoshi、Matsuura Takuya、Kadoya Shigeki	4. 巻 1
2. 論文標題 A Research on Metacognition in Observational/Experimental Activities in Science and the Factor Structure	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Information and Technology in Education and Learning	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12937/itel.1.1.1.Trans.p005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 棚橋健治	4. 巻 1211
2. 論文標題 社会科の「見方・考え方」が鍛えられる授業とは	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita Hiroyoshi、Matsuura Takuya、Kadoya Shigeki	4. 巻 1
2. 論文標題 A Research on Metacognition in Observational/Experimental Activities in Science and the Factor Structure	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Information and Technology in Education and Learning	6. 最初と最後の頁 1~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12937/itel.1.1.1.Trans.p005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita Hiroyoshi、Utani Ryosuke	4. 巻 20
2. 論文標題 LEARNING PROGRESSIONS IN LOWER-SECONDARY SCHOOL SCIENCE EDUCATION IN JAPAN	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Baltic Science Education	6. 最初と最後の頁 775~789
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33225/jbse/21.20.775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 FURUISHI Takuya、YAMANAKA Shingo、KINOSHITA Hiroyoshi	4. 巻 62
2. 論文標題 Basic Research on Consensus Building Ability in Elementary School Science	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Research in Science Education	6. 最初と最後の頁 465~474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11639/sjst.21016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下 博義、岩崎 泰博	4. 巻 46
2. 論文標題 児童が保持する電流の素朴概念の明確化と科学概念への変容を支援するAR 教材および指導法に関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 141 ~ 156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jjet.45068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山元隆春	4. 巻 17
2. 論文標題 ローゼンブラット「交流理論」の再検討ーリテラシー教育基礎論としての意義を中心にー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 論叢国語教育学	6. 最初と最後の頁 51 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山元隆春	4. 巻 597
2. 論文標題 発見の契機としての詩歌学習	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊国語教育研究	6. 最初と最後の頁 34 ~ 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山元隆春	4. 巻 63
2. 論文標題 読む文化・読むコミュニティを築く基盤としての「共通テキストを読む」授業と自立した読者の育成 ケイト・ロバーツ『小説アプローチ』を手がかりとして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語教育研究	6. 最初と最後の頁 14-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita, H., Matsuura, T., & Kadoya, S.	4. 巻 1
2. 論文標題 A Research on Metacognition in Observational / Experimental Activities in Science and the Factor Structure.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Information and Technology in Education and Learning,	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中真悟・中山貴司・木下博義	4. 巻 9
2. 論文標題 プログラミング的思考についての基礎的研究 - 小学校理科における授業実践を通して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福山市立大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 59-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桃原研斗・瀬谷敦之・西村岬・岩崎泰博・青木理恵・眞鍋瑞歩・宇谷亮介・西村洸・木下博義	4. 巻 4
2. 論文標題 河川教育を通して児童に身に付く力とその要因構造に関する基礎的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教職開発研究	6. 最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎茜・米沢崇・大後戸一樹・木下博義	4. 巻 27
2. 論文標題 「学び続ける教員」を育成するアクティブ・ラーニング型教員研修の実践 - 自主参加研修の事例に関する一考察 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山貴司・桃原研斗・木下博義	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 児童が主体的に批判的思考力を高める指導法に関する研究 - レーダーチャートによる目標設定と自己評価活動を通して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 理科教育学研究	6. 最初と最後の頁 309-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山元隆春	4. 巻 16
2. 論文標題 フレンド型授業における読むことの『選択的学び』と評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 論叢国語教育学	6. 最初と最後の頁 78-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山元隆春	4. 巻 62
2. 論文標題 文学の対話的論証(Dialogic Literary Argumentation)と学習評価ー文学の授業における生徒へのフィードバックを中心にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語教育研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間瀬茂夫	4. 巻 1243
2. 論文標題 「他者」を観点とした「ごんぎつね」授業実践の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 38 - 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間瀬茂夫	4. 巻 -
2. 論文標題 教育改革と国語科教育の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語科教育を問いなおす	6. 最初と最後の頁 63-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間瀬茂夫	4. 巻 578
2. 論文標題 「考えの形成」のプロセスを重視した「書くこと」の指導	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語教育研究	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三好美織・鈴木明子・間瀬茂夫	4. 巻 27
2. 論文標題 教師教育における教科連携の試み-大学院「学力・コンピテンシーデザイン基礎研究」の成果と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 123-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 登城千加・間瀬茂夫	4. 巻 1
2. 論文標題 高等学校国語科における文章読解のつまずきに関する研究-文章読解のモデルに基づく調査結果の分析を ととして-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究	6. 最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間瀬茂夫	4. 巻 844
2. 論文標題 連載AIに負けない読解力を考える：第1回連載企画の概要	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育科学国語科教育	6. 最初と最後の頁 88-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間瀬茂夫	4. 巻 845
2. 論文標題 連載AIに負けない読解力を考える：第2回国語科における「読解力」のとらえ方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育科学国語科教育	6. 最初と最後の頁 84-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間瀬茂夫	4. 巻 854
2. 論文標題 連載AIに負けない読解力を考える：第11回授業において読解力をどのように指導していくか（1）国語科の場合	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育科学国語科教育	6. 最初と最後の頁 84-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間瀬茂夫	4. 巻 855
2. 論文標題 連載AIに負けない読解力を考える：第12回授業において読解力をどのように指導していくか（2）他教科の場合	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育科学国語科教育	6. 最初と最後の頁 84-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daiki Mizoue, Hirotaka Nanba, Shigeo Mase, Sayaka Hashima, Isao Yamanaka, Ryusuke Miyamoto, Hiroyasu Yoshioka, Mayu Takahashi	4. 巻 48
2. 論文標題 Verification of Japanese language classes that foster logical thinking skills	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Annals of Educational Research	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下博義、山中真悟	4. 巻 8
2. 論文標題 高等学校物理におけるSTEM教育に関する研究 - STEMの要素間の関係理解に着目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福山市立大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 85, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 木下博義
2. 発表標題 理科教育から生まれる成果とは
3. 学会等名 初等教育カリキュラム学会第6回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木下博義、三好美織ほか
2. 発表標題 高次思考能力と理科カリキュラムに関する諸外国との比較に関する一考察
3. 学会等名 第47回日本教科教育学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 河川教育を通して生徒に身に付く力の評価方法に関する研究
3. 学会等名 第1回日本河川教育学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山元隆春
2. 発表標題 「共通テキストを読む」と「一人で選んで読む」とのバランスを探る「読むこと」の教育 Kate Roberts(2018) A Novel Approachを手がかりとして
3. 学会等名 全国大学国語教育学会141回世田谷大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山元隆春
2. 発表標題 「共通テキストを読む」と「一人で選んで読む」とのバランスを探る「読むこと」の教育 Kate Roberts(2018) A Novel Approachを手がかりとして
3. 学会等名 全国大学国語教育学会141回世田谷大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 河川教育を通して生徒に身に付く力の評価方法に関する研究
3. 学会等名 第1回日本河川教育学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下博義・三好美織ほか
2. 発表標題 高次思考能力と理科カリキュラムに関する諸外国との比較に関する一考察
3. 学会等名 第47回日本教科教育学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下博義
2. 発表標題 理科教育から生まれる成果とは
3. 学会等名 初等教育カリキュラム学会第6回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 中学校理科における実験計画力の指導に関する一考察 - 条件を制御する力に焦点を当てて -
3. 学会等名 第46回日本教科教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 小学校理科におけるAR教材を用いた授業開発に関する研究 - 単元「もののあたまわり方」における科学的概念理解を目指して -
3. 学会等名 第70回日本理科教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 理科におけるデータ解釈能力の育成に関する実践的研究 - 単元「物のとけ方」における問題解決の過程に着目して -
3. 学会等名 第70回日本理科教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 中学校理科における探究活動と資質・能力の育成に関する研究 - 国際バカロレアの視点を取り入れて -
3. 学会等名 第70回日本理科教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 中学校理科における自己評価ワークシートの考案 - 生徒の学習改善につながる彦評価を目指して -
3. 学会等名 第70回日本理科教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 小学校理科における批判的思考力育成のための自己評価に関する研究
3. 学会等名 第70回日本理科教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 STEM系教師教育を指向した学習指導法の探究的アプローチ
3. 学会等名 第70回日本理科教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木下博義ほか
2. 発表標題 河川教育を通して児童に身に付く力とその要因構造に関する研究
3. 学会等名 2019年度第9回日本科学教育学会研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 間瀬茂夫ほか
2. 発表標題 高等学校における「批評する力」を育成する文学作品の学習指導に関する研究 批評文集を用いた「読みの観点」と「書き方」の習得・活用
3. 学会等名 第139回全国大学国語教育学会秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 間瀬茂夫
2. 発表標題 「学習者の論理」をどのように育てるのか 国語科学習領域をまたぐユーザーのための「論理」の学習指導
3. 学会等名 第139回全国大学国語教育学会秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 間瀬茂夫
2. 発表標題 批評文 (Literary Argumentative Writing) 指導の構想
3. 学会等名 第13回中国・北九州国語教育学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 棚橋健治、玉井慎也、高松尚平、真崎将弥、渡邊竜平、奥村 尚、孫 玉珂、荒木詩織、田中亮太、原田 歩、藤岡袖衣
2. 発表標題 史資料の批判的研究方法の獲得に焦点化した探究型歴史学習 (1) IBDP 「歴史」における「指定学習項目」単元の開発原理
3. 学会等名 全国社会科教育学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 棚橋健治、玉井慎也、高松尚平、真崎将弥、渡邊竜平、奥村 尚、孫 玉珂、荒木詩織、田中亮太、原田 歩、藤岡袖衣
2. 発表標題 史資料の批判的研究方法の獲得に焦点化した探究型歴史学習 (2) IBDP 単元「東アジアにおける日本の拡張政策」のレッスンプラン
3. 学会等名 全国社会科教育学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三好美織、西村栄哉、松原憲治
2. 発表標題 現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容としての科学の本質
3. 学会等名 日本理科教育学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 間瀬茂夫、三好美織、西村栄哉、高橋龍之介
2. 発表標題 科学に対する認識の形成に向けた説明的文章教材の検討 - 理科と国語の教科等横断的視点から -
3. 学会等名 日本教科教育学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木下博義、青木理恵
2. 発表標題 中学校理科における資質・能力の育成に関する研究－国際バカロレアの視点を取り入れて－
3. 学会等名 日本教科教育学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木下博義、西村洸
2. 発表標題 中学校理科におけるスキルの活用に関する研究－国際バカロレア中等教育プログラムに着目して－
3. 学会等名 日本教科教育学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 棚橋健治ほか
2. 発表標題 IBDP「歴史」における「指定学習項目」の授業開発 - 歴史学習における史資料の読解・分析の一例として -
3. 学会等名 全国社会科教育学会全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山元隆春ほか
2. 発表標題 IB(国際バカロレア)「文学」に関する一考察
3. 学会等名 広島大学国語教育学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 山元隆春ほか編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 新・教職課程演習初等国語科教育	

1. 著者名 木下博義ほか編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 262
3. 書名 新・教職課程演習 初等理科教育	

1. 著者名 木下博義ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 160
3. 書名 「コロナ」から学校教育をリデザインする 公教育としての学校を捉える視点	

1. 著者名 三好美織ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 261
3. 書名 新・教職課程演習 中等理科教育	

1. 著者名 木下博義ほか(分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 170
3. 書名 ポスト・コロナの学校教育 教育者の応答と未来デザイン	

1. 著者名 山元隆春ほか(分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新評論	5. 総ページ数 190
3. 書名 (翻訳) 読む文化をハックするー読むことを嫌いにする国語の授業に意味があるのか?ー	

1. 著者名 山元隆春ほか(分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 全国大学国語教育学会	5. 総ページ数 109
3. 書名 国際バカロレアにおける「言語と文学」「文学」の授業から国語科のあり方を考え直す	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木下 博義 (KINOSHITA HIROYOSHI) (20556469)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	井戸川 豊 (IDOGAWA YUTAKA) (50293022)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	三好 美織 (MIYOSHI MIORI) (80423482)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	山元 隆春 (YAMAMOTO TAKAHARU) (90210533)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	間瀬 茂夫 (MASE SHIGEO) (90274274)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関